

## 兵庫県のセスジムシ, マルクビゴミムシなど

森 正人<sup>1)</sup>

### はじめに

今回は食肉亜目のセスジムシ科及びオサムシ科のヒゲトオサムシ亜科, カワラゴミムシ亜科, マルクビゴミムシ亜科及びヌレチゴミムシ亜科などの小さな分類群の兵庫県のデータを整理しておきたい。まず, 上位の分類単位である亜科と族の扱いについては, 最終的な目録作成を念頭に置いて, Löbl・Löbl(2017)に出来るだけ沿うことにした。また, 種の学名についてもこれに準拠したが, 配列はできるだけ従来の図鑑(上野ほか, 1985)に従った。

いつものとおり, 掲載記録は種ごとに文献記録と標本記録に分け, 文献記録については記載された県内の記録地名と出典情報を明記した。標本記録については, 筆者が実検したもの, 筆者の手許にある県内標本のなかから, 原則1産地1例とし, 採集頭数・採集地・採集データを明記した。採集者については, 筆者以外のものは採集者名を明記し, 筆者採集のものはこれを省略した。生息環境や生態情報, 全国分布, 基産地情報などについても知り得た範囲で記述した。

### 各種解説

#### セスジムシ科 Rhysodidae

日本産は3族6属10種, 兵庫県では本州に分布する3族4属5種すべてを記録することができた。いずれの種類も比較的自生度の高い樹林内に生息し, 通常は湿気のある倒木や朽木の材中に潜んでいる。成虫態で越冬する。

#### ヒラタセスジムシ族 Tribe Clinidiini

日本産は2属2種で, 県下では以下の1種。

#### ヒラタセスジムシ属 Genus *Clinidium*

##### 1. チャイロヒラタセスジムシ *Clinidium (Arctoclinidium)*

*veneficum* Lewis, 1888

【文献記録】洲本市先山 [堀田, 1976]

【標本記録】22exs, 姫路市夢前町熊部, 10-III-2007.

本州, 四国, 九州に分布。山地ブナ古木から得られ

た情報があるが, 姫路市夢前町では大きなモミの倒木材中から多数が得られた。生息場所はヤマビルが生息する比較的湿潤なスギ植林地で随所にモミが生育している。

#### ヤマトセスジムシ族 Tribe Omoglymniini

日本産は2属6種, 県下では以下の2属3種。

#### ヤマトセスジムシ属 Genus *Omoglymmius*

##### 2. セスジムシ *Omoglymmius (Pyxiglymmius) crassiusculus* (Lewis, 1888)

【標本記録】1ex, 宍粟市坂の谷, 28-VII-2012.

北海道と本州中部以北に分布するとされているが, 兵庫県でも比較的標高の高い場所に生息することがわかった。兵庫県初記録となる。残念ながら, 得られた材の種類や状態についての記憶がない。ナミセスジムシは別名。

##### 3. ヤマトセスジムシ *Omoglymmius (Boreoglymmius) lewisi* (Nakane, 1978)

【標本記録】1ex, 宍粟市音水溪谷, 10-V-2009; 1ex, 宍粟市赤西溪谷, 14-VIII-2013, 下野誠之採集。

本州に分布する。この種も兵庫県初記録。

#### ホソセスジムシ属 Genus *Yamatosa*

##### 4. ホソセスジムシ *Yamatosa niponensis* Lewis, 1888

【文献記録】扇ノ山 [高橋匡, 1982]

【標本記録】9exs, 宍粟市赤西溪谷, 13-XII-2008.

日本では北海道, 本州, 四国, 九州に, 海外では極東に分布する。ニホンセスジムシは別名。

#### セスジムシ族 Tribe Rhysodini

日本では2属2種。

#### セスジムシ属 Genus *Rhysodes*

##### 5. トビイロセスジムシ *Rhysodes comes* Lewis, 1888

【標本記録】2exs, 波賀町氷ノ山, 23-VII-1989.

日本では北海道, 本州, 四国, 九州に, 海外では極

<sup>1)</sup> Masato MORI 環境科学大阪 株式会社

東に分布。これも兵庫県初記録。樹皮下や朽ち木内部から採集された。

#### オサムシ科 Carabidae

Löbl・Löbl(2017)ではオサムシ科を13の亜科(日本産)に区分している。今回はヒゲブトオサムシ亜科, カワラゴミムシ亜科, マルクビゴミムシ亜科, ヌレチゴミムシ亜科の記録を整理した。

#### ヒゲブトオサムシ亜科 subfamily Paussinae

##### エグリゴミムシ族 Tribe Ozaenini

日本には2属4種が分布しているが、兵庫県は次の1属である。

#### エグリゴミムシ属 Genus *Eustra*

日本産は3種であるが、兵庫県では次の1種だけが分布している。

#### 6. エグリゴミムシ *Eustra japonica* Bates, 1892

【文献記録】Maiyasan near Kobe[Lewis G.,1892];篠山町王地山公園[岸田剛二・辻啓介,1975];篠山町雨石山[林靖彦ほか,1995];三原郡灘[高橋寿郎,1998];Isuratani, 音水溪谷[安井通宏・初宿成彦,2012].

【標本記録】1ex, 丹波市市島町妙高山,16-VII-2018; 1ex, 新宮町栗栖川,13-V-2012; 1ex, 姫路市青山,8-VII-2017; 6exs, 川西市一庫ダム,27-IX-2003; 26exs, 神戸市道場(オオハリアリ巢内),12-VIII-2007; 1ex, 三木市美囊川(クサアリモドキ巢内),2-JAN.2007; 1ex, 三原町上田池林道,6-X-2001.

本州南西部, 四国, 九州に分布する。兵庫県では中央部以南で多く確認されている。樹皮下で見られることが多く, アリ類と共に見つかることも多いが, アリとの関係についてはよく観察できなかつた。なお, 幸形(2010)は, 本種の飼育観察から, 幼虫は腐朽材に巣穴を穿って生活し, 穴に近づくトビムシを捕食すると報告しており, 大変興味深い。

#### カワラゴミムシ亜科 subfamily Omophroninae

##### カワラゴミムシ族 Tribe Omophronini

#### カワラゴミムシ属 Genus *Omophron*

日本産は1種で, 兵庫県にも分布している。

#### 7. カワラゴミムシ *Omophron aequale* Morawitz, 1863

【文献記録】猪名川[近畿甲虫同好会,1955];氷上郡[岸田剛二・辻啓介,1975];出石町内町[高橋匡,1982];宝塚市武庫川[安井通宏・初宿成彦,2012].

【標本記録】25exs, 宝塚市武田尾付近(武庫川),26-V-1993.

日本産は名義タイプ亜種で, 北海道, 本州, 九州, 南西諸島に分布する。河原の砂地や畑地, 時に地中に生息し灯火にもよく飛来する。武庫川の武田尾付近の河原

では過去に沢山見られたが, 最近はまったく採れなくなった。生息環境は比較的広い砂地が広がる場所の, 多少とも細礫の混じった環境で砂を攪拌することで多く得られた。

#### マルクビゴミムシ亜科 subfamily Nebriinae

日本産は以下の2族。

##### マルクビゴミムシ族 Tribe Nebriini

日本には3属が分布しており, 兵庫県では次の2属8種が確認された。なお, 兵庫昆虫同好会事務局(2001)で記録されているクロマルクビゴミムシ *Nebria ochoticha*(記録地は西脇市津万の河原)は分布域を考慮してここでは扱わなかつた。

#### ミヤママルクビゴミムシ属 Genus *Nippononebria*

日本には4種が分布しており, 兵庫県では次の1種が確認された。

#### 8. ミヤママルクビゴミムシ *Nippononebria (Nippononebria) chaldeola* (Bates, 1883)

【文献記録】宝塚市切畑長尾山[小田中健,1992];佐用町大撫山[安井通宏・初宿成彦,2012]

【標本記録】1ex, 豊岡市但東町小坂峠,8-V-1999; 1ex, 宍粟市赤西溪谷,12-V-2018; 1ex, 佐用町大撫山,16-Jan.1989.

基産地は箱根, 相模大山, 日光。日本では本州, 四国, 九州に分布し, 九州産は ssp. *kyushuensis* として区別されている。兵庫県では産地, 個体数ともあまり多くなく, 岩盤の隙間などから採集された。

#### マルクビゴミムシ属 Genus *Nebria*

日本には少なくとも28種が知られており, 兵庫県では次の7種が確認された。

#### 9. フタモンマルクビゴミムシ *Nebria (Eunebria) pulcherrima* Bates, 1873

【文献記録】Hiogo[Bates,1873];猪名川河原軍行橋付近[戸澤信義・福貴正三,1933];武庫川[安井通宏・初宿成彦,2012].

日本では本州, 四国, 九州に分布している。生息地は全国的にも局所的で, 兵庫県でも過去には猪名川や武庫川の下流域で見られたようだが, その頃から大変珍しい種類であったらしい(戸澤・福貴,1933)。最近の県下での記録は全くない。吉田ほか(2009)によると, 徳島県吉野川中流では, 伏流水がしみ出すような綺麗な砂地の石下から見つかり, 成虫は3月初旬から出現するが, 5月中旬から9月中旬までの期間は見られず, 10月から再び活動を始めることが報告されている。フタホシマルクビゴミムシは別名。画像は徳島県産。

1 0. カワチマルクビゴミムシ *Nebria (Eunebria) lewisi* Bates, 1874

【文献記録】武庫川 [近畿甲虫同好会, 1955]; 宝塚市弥生町, 玉瀬 [小田中健, 1992]; 西脇市津万の河原 [兵庫昆虫同好会事務局, 2001]; 甲東園, 宝塚, 川西市小戸, 武庫川 [安井通宏・初宿成彦, 2012].

【標本記録】5exs, 赤穂市 (千種川), 9-XII-2000; 2exs, 赤穂市有年 (千種川), 3-XI-2014; 2exs, 西脇市 (野間川), 17-XI-2007; 5exs, 小野市 (万願寺川), 2-V-1988; 17exs, 加西市青野ヶ原, 16-XI-2006; 6exs, 加古川市 (加古川), 26-V-2012; 6exs, teneral, 加古川市権現湖, 2-V-1999; 2exs, 三木市 (美囊川), 3-XI-2007; 3exs, 神戸市道場 (武庫川), 23-X-199; 3exs, teneral, 神戸市道場 (武庫川), 10-IV-2016; 3exs, 神戸市道場 (有馬川), 1-XII-2018; 5exs, 伊丹市軍行橋 (猪名川), 27-X-2012.

日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布している。兵庫県では南部の河川に数多く見られる。4月から5月旬には羽化直後の柔らかい個体が多く混じり, 12月でも活動個体が見られる。コキベリマルクビゴミムシは別名。

1 1. サドマルクビゴミムシ *Nebria (Sadonebria) sadona* Bates, 1883

【文献記録】神戸町砥峰高原 [八木剛ほか, 2003]

【標本記録】3exs, 豊岡市日高町蘇武林道, 14-IX-2013; 2exs, 宍粟市赤西林道, 4-X-2008; 3exs, 宍粟市音水溪谷, 4-X-2008; 1ex, 養父市大段平, 3-IX-2016; 1ex, 養父市杉が沢, 1-VI-2012; 1ex, 波賀町水ノ山, 6-VIII-2005; 2exs, 神河町千町峠, 4-VIII-2007; 1ex, 神河町峰山高原, 26-V-2012; 2exs, 生野町銀山湖, 3-VI-2001.

原産地は新潟県佐渡島。日本では本州, 四国, 九州に広く分布する。日光から *ssp. leechi*, 大台ヶ原から *ssp. ohdaiensis* が記載されているが形態差や分布境界は不明瞭である。さらに, Sasakawa(2008~2016)によって各地産が区別され新種として多く記載されており, 今後の分類検討の必要な分類群である。兵庫県では南部地域では見たことがなく, 中央部から北部にかけての山地帯の溪流周辺に生息している。

1 2. マルクビゴミムシ *Nebria (Sadonebria) chinensis* Bates, 1872

【文献記録】篠山町川代, 26-X-1965 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 宝塚 [吉武啓ほか, 2011]; 甲東園, 宝塚市中山, 川西市笹部 [安井通宏・初宿成彦, 2012].

【標本記録】1ex, 八鹿町, 22-X-1994; 1ex, 八千代町, 10-X-1994; 2exs, 赤穂市高雄 (千種川), 11-X-2014; 1ex, 上郡町 (千種川), 3-XI-2014; 1ex, 宝塚市武田尾 (武庫川), 20-IV-1993; 2exs, 神戸市道場 (武庫川), 16-IV-1993.

本州, 四国, 九州に広く分布する。海外では朝鮮半島, 中国に分布。河川や畑地などに生息するが個体数は一般に多くない。

1 3. オオマルクビゴミムシ *Nebria (Paranebria) macrogona* Bates, 1873

【文献記録】Hiogo [Bates, 1873]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 宝塚市玉瀬 [小田中健, 1992]; 猪名川, 六甲, 村岡町市原, 川西市見野, 川西市笹部 [安井通宏・初宿成彦, 2012] 【標本記録】6exs, 神戸市道場 (武庫川), 23-X-1992.; 3exs, teneral, 神戸市道場武庫川, 10-IV-2016; 3exs, 西宮市武田尾, 20-IX-2010, 伊藤主計採集。

日本では北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布している。生息環境は河川で中~上流域に多い。4月には羽化直後の柔らかい個体が多く混じる。

1 4. キベリマルクビゴミムシ *Nebria (Paranebria) livida* Linnaeus, 1758

【文献記録】神戸市御影 [関公一, 1934]; 氷上郡 [山本義丸, 1958]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 西脇市津万の河原 [兵庫昆虫同好会事務局, 2001]; 一庫, 猪名川, 御影, 住吉, 武庫川 [安井通宏・初宿成彦, 2012]; 西宮 [吉武啓ほか, 2011]; 神崎郡船津村大沢 [森正人, 2018].

【標本記録】1ex, 姫路市船津 (旧神崎郡船津村大沢), 1940年5月, 小林平一採集; 2exs, 同所, 1941年5月10日, 小林平一採集; 1ex, 同所, 1947年10月10日, 小林平二採集 (以上は公表済); 1♀, 猪名川, 23-XII-1955; 同所, 1♀, 7-I-1956; 同所, 1♀, 18-XI-1956 (以上, いずれも箕面昆虫館収蔵標本)。

名義タイプ亜種はヨーロッパに広く分布する。日本産は *ssp. angulatus* Banninger, 1949 とされ, 本州, 四国, 九州に分布する。昔は普通に見られた種類であるが最近では全く記録がない。生態情報にも乏しいが, 過去文献による生息環境としては, 河原や畑 (小菅, 1948), 河原や山など広い (戸澤・福貴, 1933) ことが記述されているが, 減少要因がよくわからない。また, 福貴 (1935) によると, 「寒風吹きすさぶ水打際に出て石を起こしたり草の根もとを掘ったりすると出てくる」とあり, また人見 (1935) も本種を 1934年2月14日に石下より得た (大阪守口町) と報告している。昔は冬に採れることがよく知られていたようである。ちなみに, 箕面昆虫館収蔵の猪名川産の標本も 11月, 12月, 1月の採集品であり, さらに谷・伊藤 (2016) も淀川での 12月3日の記録 (小菅謙蔵採集) を報告している。画像は滋賀県産。

1 5. ヒメマルクビゴミムシ *Nebria (Falcinebria) reflexa* Bates, 1883

【文献記録】扇ノ山ほか [高橋匡, 1982]; 八鹿町 [安井通宏・初宿成彦, 2012]

【標本記録】4exs, 温泉町前, 28-X-1992; 3exs, 豊岡市河梨峠, 9-VII-2001; 1ex, 豊岡市岩井, 12-X-2011; 8exs, 豊岡市日高町蘇武林道, 14-IX-2013; 5exs, 養父市杉が沢, 1-VI-2012; 3exs, 養父市鉢伏高原, 22-IX-2015; 1ex, 朝来市生野町白口, 27-V-2007; 1ex, 朝来市生野町銀山湖, 26-V-2001; 2exs, 養父市建屋奥山, 27-V-2000; 1ex, 夢前町雪彦山, 10-XI-1996; 2exs, 千種町峰越峠, 9-X-1999; 2exs, 宍粟市赤西林道, 4-X-2008; 2exs, 笠形山 600m, 4-VI-2000; 青垣町栗鹿山, 31-III-2002; 2exs, 音水溪谷, 24-V-2003

原産地は岩木山, 兵庫県産は奈良原産の ssp. *uenoi* Nakane, 1963 に該当すると思われるが, その差異はあまり明瞭ではない. 日本では本州, 四国, 九州に広く分布している. 兵庫県では南部地域では見られず中～北部の山地溪流付近で多く得られる.

### ミヤマメダカゴミムシ族 Tribe Notiophilini

#### ミヤマメダカゴミムシ属 Genus *Notiophilus*

日本産は3種で兵庫県では次の1種である.

#### 1 6. ミヤマメダカゴミムシ *Notiophilus impressifrons* Morawitz, 1862

【文献記録】篠山町雨石山 [林靖彦ほか, 1995]; 扇ノ山 [高橋匡, 1982]; 神戸町砥峰高原 [八木剛ほか, 2003]; 氷ノ山 [吉武啓ほか, 2011]; 波賀町赤西溪谷 [安井通宏・初宿成彦, 2012] 【標本記録】2exs, 香美町ハチ北高原, 5-V-2012; 1ex, 朝来市生野町白口, 27-V-2007; 4exs, 千種町峰越峠, 9-X-1999; 2exs, 関宮町鶴縄, 3-VI-2000; 4exs, 和田山町鉄鉦山 600m, 7-VII-2001; 3exs, 宍粟市坂の谷, 12-VIII-2012; 2exs, 宍粟市赤西溪谷, 6-VI-2010; 2exs, 神戸町峰山高原, 16-VI-2007; 2exs, 神戸町砥峰高原, 21-V-2011; 3exs, 神戸町千町峠 900m, 15-VI-2007; 1ex, 大河内町千町ヶ峰, 27-VIII-2005.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 海外では東シベリア, 極東, 朝鮮半島などに分布. 低山地～山地の杉林中などで落葉の間を歩く. この種も, 兵庫県の南部地域ではほとんど見られない.

#### ヌレチゴミムシ亜科 subfamily Patrobinae

#### ヌレチゴミムシ族 Tribe Patrobini

日本には4属30種ほどが分布しており, 兵庫県ではこのうち3属が確認された. このうち, ヌレチゴミムシ属 *Apatrobus* については, 県内の数カ所で得られているが, 種名の特定ができず, また別途研究中であるため, ここではとりあげなかった.

#### キアシヌレチゴミムシ属 Genus *Archipatrobus*

日本産は1種で, 兵庫県にも分布している.

#### 1 7. キアシヌレチゴミムシ *Archipatrobus flavipes* Motschulsky, 1864

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 宝塚市末広町, 玉瀬 [小田中健, 1992]; 洲本市安乎町 [高橋寿郎, 1998]; 柏原 [吉武啓ほか, 2011]; 甲東園, 猪名川, 篠山, 新宮町, 川西市見野, 笹部 [安井通宏・初宿成彦, 2012]

【標本記録】1ex, 香住町矢田川, 5-V-2012; 1ex, 赤穂市真殿千種川, 25-VIII-2018; 3exs, 三木市美囊川, 2-IV-2000; 2exs, 稲美町, 24-IV-1999; 2exs, 神戸市道場, 11-Feb. 1992; 18exs, 神戸市淡河, 14-V-2005; 3exs, 伊丹市下河原猪名川, 1-XII-2007; 3exs, 伊丹市軍行橋 (猪名川) 27-X-2012.

日本では北海道, 本州, 四国, 九州に, 海外では朝鮮半島, 中国に広く分布する. 日本産は名義タイプ亜種に属する. 水辺にごく普通で個体数も多い.

#### カワチゴミムシ属 Genus *Diplous*

日本産は2種で, 兵庫県にも分布している.

#### 1 8. カワチゴミムシ *Diplous (Diplous) sibiricus* Motschulsky, 1844

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 氷ノ山 [高橋匡, 1982]; 宝塚市南口・玉瀬 [小田中健, 1992]; 西宮武庫川 [吉武啓ほか, 2011]; 神戸市押部谷・武田尾武庫川・猪名川・西宮市仁川・宝塚 [安井通宏・初宿成彦, 2012]

【標本記録】3exs, 養父市八鹿町宿南 (円山川), 19-VI-2011; 4exs, 揖保川町半田 (揖保川), 25-IV-2014; 5exs, 赤穂市有年, 3-XI-2014; 8exs, 新宮町栗栖川, 13-V-2012; 9exs, 上郡町上郡橋 (千種川), 3-XI-2014; 3exs, 加古川市加古川下流, 26-V-2012; 2exs, 小野市万願寺川, 2-V-1995; 16exs, 神戸市道場 (武庫川), 15-IV-1995

名義タイプ亜種は東シベリア, 極東, 中国北部, 北朝鮮に分布, 日本産は ssp. *caligatus* Bates, 1873 で, 北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布している. 河川環境にほぼ特有な種類で生息地での個体数は多い.

#### 1 9. ヒメカワチゴミムシ *Diplous (Platidius) depressus* Gebler, 1830

【文献記録】扇ノ山 [高橋匡, 1982]

【標本記録】3exs, 波賀町赤西, 3-VI-1996.

日本では北海道, 本州, 四国に分布している. 兵庫県では北部山地帯で見られるが産地や個体数は少ない.

兵庫県内におけるゴミムシ類のまとめた目録が無いことから, 整理を始めたこのシリーズであるが, 残り難解なナガゴミムシ類, マルガタゴミムシ類などを残すだけになった. 最終的には追加種, 追加データや修正を含めて, 兵庫県産食肉亜目目録として表したいと考えている.



今回の報告にあたり、大阪府の箕面昆虫館の収蔵標本について、閲覧の許可と記録公表の了解を頂いた館長の中峰空さん、標本及びデータを提供頂いた下野誠之さん、伊藤主計さんにお礼を申し上げる。

#### 引用文献

- Bates, H. W., 1873. On the Geodephagos Coleoptera of Japan. Trans. Ent. Spc. London, Part II, 219-322.
- 林靖彦ほか, 1995. 1989年度, 雨石山に於ける甲虫相調査報告書. Kasuga, 11;3-7.
- 人見一馬, 1935. 冬季採集にて獲たる昆虫(其ノ三). 昆虫界, 3(14): 20-21.
- 堀田久, 1976. 先山の昆虫相(1). Parnassius, 16;11-32.
- 福貴正三, 1935. 歩行虫の冬季採集. 昆虫界, 3(13): 14-15.
- 岸田剛二・辻啓介, 1975. 兵庫県多紀郡篠山町附近の歩行虫. きべりはむし, 4(1/2);16-25.
- 近畿甲虫同好会, 1955. 原色日本昆虫図鑑(上) 甲虫編. 保育社: 274pp.
- 幸形聡, 2010. エグリゴミムシ幼虫の補食行動. 甲虫ニュース(172): 23.
- 小菅謙蔵, 1948. 昆虫の採集.
- 兵庫昆虫同好会事務局, 2001. 多可郡の甲虫相. きべりはむし, 29(1);10-27.
- Löbl, I., D. Löbl, 2017. Catalogue of Palaearctic Coleoptera. 1443pp.
- Löbl, Smetana, 2003. Catalogue of Palaearctic Coleoptera. Apollo Books.
- 森正人, 2018. 故・小林平一氏採集のゴミムシ標本について. きべりはむし, 40(2): 23-25.
- 中根猛彦, 1973-1978. 日本の甲虫(1, 3-5, 52, 53). 昆虫と自然, 8(9)-13(11).
- 仲田元亮, 1978. 「能勢の昆虫」その後1. きべりはむし, 7(1): 15-17.
- 小田中健, 1993. 宝塚の昆虫Ⅱ. 宝塚市.
- 関公一, 1934. 御影町附近産の甲虫目録. 昆虫界, II(7);41-43.
- 安井通宏・初宿成彦, 2012. ゴミムシ類 -PartA-. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(2). 大阪市立自然史博物館, (44);6-36.
- 高橋匡, 1982. 但馬地方昆虫目録(予報第7報). Iratsume, 6;57-76.
- 高橋寿郎, 1998. 淡路島産甲虫目録(1). Parnassius, 47;1-9.
- 谷寿一・伊藤建夫, 2016. 昆虫類. 八幡のまちの小さな仲間たち 2016. 八幡市.
- 戸澤信義・福貴正三, 1933. 大阪附近の歩行虫類. 昆虫世界, 37.
- 上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝, 1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅱ). 保育社.
- 吉松慎一・伊藤昇・中谷至伸・吉武啓, 2018. 農業環境変動研究センター所蔵の田中和夫コレクション(昆虫綱;コウチュウ目) 標本目録. 農業環境技術研究所研究報告, (39).
- 吉武啓・栗原隆・吉松慎一・中谷至伸・安田耕司, 2011. 研究資料農業環境技術研究所所蔵の土生永申コレクション(昆虫綱;コウチュウ目;オサムシ科) 標本目録. 農業環境技術研究所研究報告, (28).
- 八木剛ほか, 2002. 六甲山のブナ林とその周辺の昆虫相. きべりはむし, 30(1);1-45.
- 八木剛ほか, 2003. 砥峰高原の昆虫相. きべりはむし, 31(1);1-9.
- 山本義丸, 1958. 兵庫県氷上郡昆虫目録, 氷上の自然第3集. 兵庫県立柏原高等学校生物教室.
- 吉田正隆・黒田祐次・田中光治・櫻木大介, 2009. 美馬市美馬町の甲虫. 阿波学会紀要, (55): 59-66.



1. チャイロヒラタセズジムシ



2. セズジムシ



3. ヤマトセズジムシ



4. ホソセズジムシ



5. トビイロセズジムシ



6. エグリゴミムシ



7. カワラゴミムシ



8. ミヤママルクビゴミムシ



9. フタモンマルクビゴミムシ



10. カワチマルクビゴミムシ



11. サドマルクビゴミムシ



12. マルクビゴミムシ



13. オオマルクビゴミムシ



14. キベリマルクビゴミムシ



15. ヒメマルクビゴミムシ



16. ミヤマメダカゴミムシ



17. キアシヌレチゴミムシ



18. カワチビゴミムシ



19. ヒメカワチビゴミムシ